

2020年11月7日

## 命の安全、暮らしに安心、「市民＋立憲野党」で政権交代を

——第49回衆議院議員選挙への呼び掛け——

県民の皆さん！ 各政党・各団体の皆さん！

安倍晋三氏が8月28日、内閣支持率急落の中で、体調不良を理由に突如辞任しました。7年8カ月に及ぶ安倍政権は、「立憲主義」「民主主義」「平和主義」のすべてを踏みにじった最悪の政権でした。官邸が人事権を握って官僚を支配し、「森友・加計」「桜」「検事定年延長」など露骨な政治の私物化が行われ、それらと表裏一体で公文書改ざん・隠蔽・忖度という行政の最悪の劣化が進みました。格差の拡大、地方の衰退は放置され続け、コロナ禍への稚拙な対応で、国民の混乱や、暮らし、経営、景気の悪化がもたらされました。

後継首相となった菅義偉氏は、「アベ路線を引き継ぎ、発展させる」と述べ、「自助」を強調しています。コロナ禍のいま、「命の安全、暮らしに安心」が自己責任で達成できるとでもいうのでしょうか。公助を充実するという政治責任の放棄です。

アベ政権のもとでは、防衛費が突出し続けた一方、少子高齢化に歯止めはかからず、子育て対策・教育充実はおざなり、福祉は後退、雇用・労働環境は一向に改善されず、富の公正な再分配は無視され続けてきたではありませんか。私たちは「自助・共助」ではどうにもならないところに追い込まれているのです。アベ路線継承など真っ平です。支え・補う仕組みをきちんと創り、充実を図るには、新しい政治こそ不可欠です。

今こそ流れを変えるときです。「市民＋立憲野党」で政権交代を実現しましょう。

折しも菅＝アベ路線継承内閣は、日本国憲法の改悪に向けて、危険な動きを加速させ始めました。アベ内閣の置き土産の「敵基地攻撃能力の保持」について「年末までに方向性を示す」と言い、自民党は憲法改正原案起草委員会を設置して「年内の改憲4項目の原案取りまとめ」に動き出しています。

メディアが菅首相を「苦労人」「仕事師内閣」などと持ち上げ、政権発足直後の支持率は60~70%もの高水準でした。しかし、日本学術会議会員の任命拒否問題で、拒否の理由を全く説明せず、「政府に反対する者を敵とみなし分断・排除する」という姿勢が浮き彫りとなって、支持率が急落しています。

衆議院議員は来年10月21日で任期満了です。1年以内に必ず第49回総選挙があります。「市民＋野党」を束ねた力がどうしても必要です。

私たちは、2016年参院選、17年衆院選、19年参院選と、3回の「市民＋野党」共闘を経験してきました。「市民＋野党」候補を出すことができるなら「1+1」が「2」ではなく、それ以上になる「共闘効果」が生まれることは証明済みです。しかし、まだまだ足りないところもあります。「本気の共闘」をどうつくるかということです。「1区はAさん、2区はBさん」という「すみ分けの確認」では全く不十分です。「市民＋野党」が、AさんやBさんの当選のために「各選挙区で全力を出し合う態勢づくり」をどうするか。選挙運動の仕方、協力の在り方について突っ込んだ話し合いを重ね、十分に練り上げ、意思一致し、そして実行することが求められています。

今回の衆院選では、何としても政権交代を実現して、アベ＝菅政治に代わる、新しい政治の流れを切り開かなければなりません。明文改憲の阻止には、最低でも定数の3分の1以上、156議席を獲得することが絶対に必要です。市民と立憲野党が心をついに取り組むことでそれは可能です。

コロナ危機に打ち克ち、格差をなくし、充実した暮らしを実現し、公正な政治を求め、憲法を暮らしにいかすために、「市民＋野党」の力を結集しましょう。手をつなぎ、輪を広げ、政権交代を実現して、新しい日本・鹿児島政治をつくり出しましょう！

衆院選での市民・野党共闘をめざす ALL かごしまの会